

令和 7 年度使用 中学校教科用図書調査研究結果

英 語

伊予市教科用図書調査委員会

令和 6 年 8 月 19 日（月）

【調査・研究資料】教科名（ 英語 ） No. 1

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
2 東京書籍	N E W H O R I Z O N E n g l i s h C o u r s e	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 ○ 製本サイズはA4判で、多くの情報量が整然と配置されており、非常に読みやすい。写真も多く掲載されており、生徒の興味・関心を刺激する工夫がされている。 ○ 題材は人権、国際理解、環境、自然などのSDGs、防災・安全などの今日的課題についても、多数取り上げている。 ○ 題材の取り上げ方や、話題は生徒の実態に即しており、生徒の知的好奇心を刺激し、生徒の考えや思いを引き出しやすい。また、実生活に即していることから、今後の日常生活の場面で、英語を使用することに直結しやすい。	○ 小学校で身に付けた内容を先に学習し、徐々に難易度が上がる配列であり、学習者に配慮されている。 ○ 導入→文法・本文→発展的な活動と進む各単元は、テーマが一貫しており、生徒は目的・場面・状況を把握しながら学習をすることができる。そのため、主体的・対話的で深い学びを促す学習課題の設定がしやすい。 ○ 単元を貫く問が単元名となっており、単元を通して問について考える構成になっている。 ○ Unit, Real life English, Stage Activity の3つの主要項目が、まとまりよく配列され、知識・技能の習得と活用を繰り返す中で、思考力・判断力・表現力を育成することができるよう配慮されている。	○ 第1学年の入門期は、「聞く」「話す」活動から取り組むことができ、小学校と円滑に接続されるよう配慮されている。 ○ 各学年・各学期の到達点を示すCAN-DO リストは、学習と評価の一体化を図ることができるものである。 ○ 第1学年の内容は小学校での既習事項から始まり、文字の学習に配慮した構成である。 ○ テーマ理解、要点整理、自己表現など焦点を変えながら本文を繰り返し読むことで、自然に読む回数を増やすことができ、読む力が自然に身に付く工夫がなされている。また、自分の考えをより深め、それを表現する力を育成するための題材が量・質ともに十分確保されている。 ○ 二次元コードを読み取り、本文と語句の音声を開いたり、関連する映像を見たりできる箇所が随所にあり、生徒の主体的な学習を支援する仕組みとなっている。	A4判なので、情報量が豊富かつ行間にゆとりがあり読みやすい。 十分な文章量が確保されており、豊かな言語活動の中で、資質・能力の伸長を図ることができる。 小学校で馴染んでいる音声中心の学習をした後、語形変化がある三人称単数現在形を学習するなど、学習者の負担が少なくなるよう配慮した教材配列になっている。 題材は、今日的課題や、生徒の知的好奇心を喚起する内容であり、英語を学ぶとともに視野を広げ、積極的に世界とつながろうとする豊かな心を育むよう工夫されている。 知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成を目指す構成になっている。 各単元内容は、テーマが一貫しており、生徒は目的・場面・状況を把握しながら学習をすることができる。 以上のことから、<u>採択するのに最も適している教科書であると考え</u><u>る。</u>

【調査・研究資料】教科名（ 英語 ） No.2

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
9 開隆堂	S u n s h i n e E n g l i s h C o u r s e	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 ○ 題材は、弁当や海外の代表的な料理など、生徒が興味を持ちやすいものから自然などのSDGs、スポーツなど、バランスよく多岐に渡り取り上げている。 ○ 製本サイズはA B判。 ○ 小学校との円滑な接続のため、すごろくや漫画形式を取り入れ、4技能5領域の力をバランスよく育成する学習へ移行できるようになっている。	○ 単元の構成は、漫画形式で新出表現が導入されている。目的・場面・状況が視覚的に理解できる。 ○ 二次元コードが、全単元に付いており、題材の背景知識を獲得できる。 ○ 3年間で8つの Our Project（表現し伝え合う教材）があり、既習の表現を使って、複数の技能・領域を統合的に活用し、自己表現を行うことができる。 ○ 本文内容をリテリングできるワークシート（難易度も調整できる）が付いており、繰り返し学力の定着を図ることができる。 ○ アクションカードが付いており、教師の工夫次第で様々な活動に利用できる。 ○ 単元の始めに、漫画で新文法の導入をし、その後、まとまりのある文章へと段階的な流れになっている。 ○ 導入後に、リスニング、スピーキング・ライティングと段階的に技能を身に付ける配列になっている。 △ 各パートの文章量がやや少なく、読むことの学習にはやや不十分である。	○ 段階に応じて3種類の書体を使っており、文字指導への配慮がされている。 ○ 各単元にオープクエスチョンが設けられており、多様なものの見方を育成し、深い学びができるように工夫されている。 ○ 多様なものの見方や考え方を共有できるような場面設定が多く、深まりを持たせる授業展開ができる。 △ 文法を学習する際に、重点事項の説明と場面や本文との関連が分かりにくく、重点事項を把握しづらい。 △ 第1学年の最初に be 動詞、一般動詞と疑問詞と一緒に導入されている。疑問詞の定着には良いが、英語が苦手な生徒にとっては理解が深めにくい。	題材の選択はバランスよく、多岐にわたり、生徒が興味を持ちやすい内容となっている。 全体的に、ポスターセッションやスピーチなど、生徒同士で主体的にやり取りをさせたりすることに重点を置いたProjectが設定されており、生徒も教師も楽しんで授業を行えるよう工夫されている。 二次元コードが、全単元に付いている。題材の基本となる情報や知識を獲得できる。 3年間を通して学習する文章量はやや少なく、高等学校との接続の観点から見ると、やや不十分である。 以上のことから、<u>採択するのに適している教科書であると考える。</u>

【調査・研究資料】教科名（ 英語 ） No.3

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
15 三省 堂	N E W C R O W N E n g l i s h S e r i e s	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 △ 題材は、多岐に渡っているが、馴染みのないものが多く、生徒が興味を持ちにくい。 △ 第1学年で未来表現、第2学年で現在完了形を学習するため、難易度の高さが心配される。学年間の接続に配慮が必要となる。 △ 製本サイズはA B判。紙面の情報量は多く、文字は比較的やや小さい。	○ 聞く、話す活動から、文字を見て聞いたり、読んだりする活動へつなげ、4技能5領域の力をバランスよく育成する学習へ移行できるよう工夫されている。 ○ スモールトークで即興性を育て、導入→文法・本文→表現活動という流れで、知識・技能を習得した後、思考力・判断力・表現力を育てることができる仕組みになっている。 ○ 3年間で9つの Project があり、既習の表現を使って、複数の技能・領域を統合的に活用し、自己表現を行うことができる。 ○ 各ページにある二次元コードを読み取ることで、音声、動画の視聴ができ、主体的な学習を助けるものである。	○ 二次元コードを読み取り、音声や動画コンテンツを再生することができる。繰り返し個別に学習ができる工夫がされている。 ○ 音読のコツ、リスニングのコツ、単語の覚え方等、生徒の主体的な学習を助ける手立てが多い。 ○ 入門期には、ビンゴやサイコロトークがあったり、親しみやすいイラストをふんだんに活用していたりと、生徒が楽しんで英語の授業に取り組めるように工夫している。 △ 第1学年の最初に be 動詞と一般動詞を同時に学習するため、生徒にとって負担が大きい。 △ 文字の量や情報量が多く、文字に圧倒され、学習意欲が継続しにくい。	二次元コードを読み取り、動画や文法説明等、英語が苦手な生徒も繰り返し、自分のペースで学習が進められるようになっている。 音読のコツ、リスニングのコツ、単語の覚え方等、生徒の主体的な学習を助ける手立てが多い。 題材は、多岐に渡っているが、馴染みのないものが多く、生徒が興味を持ちにくい。また、文字の量や情報量が多く、学習意欲が継続しにくい恐れがある。

【調査研究資料】教科名（ 英語 ） No. 4

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
17 教 育 出 版	O N E W O R L D E n g l i s h C o u r s e	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 ○ 題材は人権、国際理解、環境・自然、日本の伝統や文化などについて、多岐にわたっており、多数取り上げられている。 ○ 製本サイズはA B判。写真やイラストは鮮明で見やすい。また、文字のフォントも読みやすい。 △ 第1学年初期の文章量が多い。	○ 第1学年の入門期は、「聞く」「話す」活動から取り組むことができ、小学校と円滑に接続されるよう配慮されている。 ○ 5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から学習できるように配慮された構成である。 ○ Part1 と Part2 が本文の聞き取り、Part3 が読み取り、その後のTask（習得）、Grammar（文法）で、単元全体の復習、統合的な言語活動、要点の確認ができるよう学習活動ごとの指標が配列されている。 △ 第2学年でのReading は300語未満、第3学年では500～600語と第3学年の文字量が多い。 △ 二次元コードによる音声・動画が、生徒自身で学習を進めるうえで充実していない。	○ 各単元の冒頭に到達点（単元の目標）を示している。また、各学年の到達点を巻末のCAN-DO リストで示している。 ○ 即興的なやりとりの力を伸ばすことができる。 ○ 第2学年のReview Lesson で、愛媛県に関する内容が取り上げられており、身近な話題で親近感を持って学習できる。 ○ Tips では、4技能5領域それぞれの学び方ヒントを扱っている。 △ 1つのPart に複数の文法事項が割り当てられており、特に第1学年には負担が大きい。 △ 第1学年の初期段階で学習する文法事項や文章量が多く、生徒の理解度や意欲といった学習状況に格差を生じさせることにつながる。 △ 新文型の導入は、新文型の学習、リスニング、自己表現の流れでパターン化している。基礎的・基本的な文法事項と文構造の習得ができるようになっているが、自己表現の部分の扱いは難しいと思われる。	5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から学習できるように配慮された構成となっている。 題材は人権、国際理解、環境・自然、日本の伝統や文化などについて、多岐にわたっており多数取り上げられている。 第1学年の初期に、小学校で聞いたり話したりした文法事項について音声中心で理解させていくよう工夫している。 第1学年初期の文法事項や文章量が多い。また、第1、2学年での学習内容が多く、負担が大きい。

【調査・研究資料】教科名（ 英語 ） No.5

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
38 光 村 図 書	H e r e W e G o ! E N G L I S H C O U R S E	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 ○ 題材は人権、国際理解、環境などのSDGs、防災・安全、伝統文化などの今日的な課題について多数取り上げており、現代社会が抱えるグローバルおよびローカルな課題に気づき、よりよい社会の形成に主体的に参画する態度を育成することができる。 ○ 製本サイズはA B判である。 ○ 4人の個性豊かな中学生が、3年間ひと続きのストーリーを展開するという編成である。交流の楽しさ、思いやりの大切さ、心の成長など、自分のこととして共感できるように配慮している。	○ 3年間を通じて「できるようになること」を系統的に設計し、見通しを持って学習を進められるように、目標を構造化して明確に提示している。 ○ 各単元(Unit)は、「扉」「Part」「Goal」の3つのまとまりで構成されており、段階を追いながら4技能5領域の力をバランスよく伸ばすことができる。 ○ 「Part」は、左が本文、右が言語活動という構成である。言語の使用場面が明確な本文で、表現や文法事項をインプットし、Listen→Speak→Writeの順に設定された言語活動を通してアウトプットする。この一貫した活動の流れが言語習得理論に沿っている。 △ 同様の文法学習が別単元に配置されており、文法をまとまりをもって整理・理解することが難しい配列となっている。	○ 各単元の扉に Goal（単元の目標）を明示し、学習目標や学習事項が把握できるため、見通しを持って学習を進めることができる。 ○ 第1学年の巻頭は、現代風のイラストが多用されており、漫画を読んでいるような感覚で楽しみながら学ぶことができるため、英語学習に対する意欲の向上が期待できる。 ○ 二次元コードを読み取り、音声や動画コンテンツを再生することができる。音声速度を調整できたり、動画に字幕を付けることができたりし、生徒が自分に合った学習を進めることができる。 △ 第3学年では、どの単元においても本文の文字量が多く、英語が苦手な生徒は学習意欲が低下してしまう恐れがある。	各単元は「扉」「Part 1～3」「Goal」が基本構成であり、4技能の充実した言語活動が設定されているため、5領域の力をバランスよく伸ばすことができる。 現代風なイラストやキャラクターが使用されていたり、身近な話題が多く取り扱われたりしており、生徒が興味・関心を持って学習に取り組むことができる。 二次元コードを読み取り、家庭でも音声や動画コンテンツが視聴できる。また、音声速度を調整したり、動画に字幕を付けたりすることができるため、生徒が自分に合った学習を進めることができる。 同様の文法学習が別単元に配置されており、生徒の文法理解が困難になる恐れがある。文法をまとまりをもって整理・理解することが難しい配列となっている。

【調査研究資料】教科名（ 英語 ） No. 6

発行者名	教科書名	A 内容の選択・程度・その他	B 構成・配列	C 学習指導への配慮	総合所見
61 啓 林 館	B L U E S K Y E n g l i s h C o u r s e	○ 学習指導要領に示されている目標・内容に照らし合わせて適切に選択されている。 ○ 教材は、職業・伝統文化・自然・社会などへの見識を深め、豊かな人間性を育む題材が選択されている。 ○ 英語圏以外の多くの国について取り上げられている。 ○ 小学校との円滑な接続のため、聞く・話す活動から、読む・書く活動へスムーズに移行している。 4 技能 5 領域の力をバランスよく育成する学習へ移行できるよう工夫されている。 △ 製本サイズはA4判で印刷・製本とも適切。写真やイラストはあまり鮮明でない。	○ 第1学年の入門期は、「聞く」「話す」活動から取り組むことができ、小学校と円滑に接続されるよう配慮されている。 ○ 二次元コードを読み取ることで、音声を聞いたり動画を見たりすることができる。 △ 第1学年前半の単元構成は、文法・本文→練習→活用と流れ、後半は、それに、読んで考える活動が加わることで、無理なく自分の考えを深められるような手立てを取っている。理解しやすい文法配列になっているが、英文の語数は多い。 △ 学期末の Project では、既習の表現を使って、複数の技能・領域を統合的に活用し自己表現を行うことができるが、場面設定や問いの内容は、発達段階に即していないものもある。	○ 新文型の導入は、「聞く」「パターンプラクティス」「自己表現活動」となっており、基礎的・基本的な文法事項と文構造の習得ができるようになっている。 ○ 各単元の冒頭に到達点（単元の目標）を示し、何を学ぶのかが把握できる。また、各学年の到達点を巻末の CAN-DO リストで示している。 ○ Let's シリーズでは、「話す」「聞く」「読む」の各技能を集中して学習し、重点化が図られている。 ○ 言語活動に使うイラストのカードが巻末に付いており、生徒の活動的な学習を支援している。 ○ 即興的にやりとりをする力を育成する Enjoy Chatting がある。 △ 1つのパートに複数の文法事項が割り当てられており、特に第1学年には負担が大きい。 △ 一部の言語材料については、パターンプラクティスがなく対話形式の新文型学習となっているため、やや難しい。	学習指導要領に対応して、場面・状況・目的を意識した「聞く」「パターンプラクティス」「自己表現活動」となっている。それらの経験を積み上げることによって、基礎的・基本的な知識を確実に定着させていく流れは、授業者、学習者の双方にとって分かりやすい。 教材は、職業・伝統文化・自然・社会などへの見識を深め、豊かな人間性を育む事柄が選択されている。 一部の言語材料については、パターンプラクティスがなく対話形式の新文型学習となっているため、やや難しいと感じる場面もある。